

平成23年5月19日発行

No. 3

発行

島根県立益田翔陽高等学校同窓会

— 事 務 局 —

赤陵會館內

益田市あけばの東町13-1
TEL・FAX 0856-23-1619

『友』
平成23年度
第3回 益田翔陽高校同窓会定例総会



益田翔陽高校同窓会会長

波田地 三 男

「有朋自遠方來上」

緑したたる新緑の季節となりました。同窓会員の皆様方には、お元気でお過ごしのことと思います。はじめに、この度の東日本大震災、そして、大津波にあわれた被災者の皆様に心よりお悔やみと、お見舞いを申し上げます。

同窓会員の中にも親戚や御兄弟で災害にあられた方が、いらっしゃるかと思います。心から、お見舞いを申し上げたいと思います。十六年前に阪神淡路大震災が起きた時も、信じられない報道がテレビで映りだされました。今回地震は、世界でも超一級という事で、定例総会 자체どうしようかと迷いましたが、総会懇親会を縮小しても開催をしようという事で、実行委員の方々とも相談し開催する事に致しまし

職内定率の高さに加え地域のご協力頂きました。
き実践してきた「产学研連携の課題研究推進事業」の取組みなどの多様な活動が高く評価されたものと思っております。あわせて、これは両校の卒業生が社会に出て一生懸命、母校の為に働くいしばって頑張つてこられたからこそ頂いた賞と私は思つております。二月九日にグランツワで行われた課題研究発表会においても、すばらしい発表がありました。実社会に出ても、そういった経験を生かし頑張つてほしいと思います。

同窓会も三年目を迎えました。昨年五月二九日に関東支部が設立を致しました。今年七月二十四日には大阪を中心とした関西支部が設立いたしました。東京、大阪を中心とした支部が、出来たということは本部同窓会といたしましても、車の両輪が出来たと大変、

終わりに、今年も益田翔陽高校同窓会定例総会が六月十二日に決定しております。

本年度は、講師に樋野守氏をお招きして「三年間の学びの土台がヒット商品開発につながった」を演題としてお話をしていただくことになつております。

嬉しく思つておる所であります。

「友ともに！」母校に誇りを！

『友ともに！』
～母校に誇りを！

共に感謝！

三月二日には同窓会入会式を行いました。一五七名が卒業し入会を致しました。業総数二四九六六名となりました。

員のご活躍を祈念しご挨拶といたします。

母校翔陽高校も同窓会員の皆様方に、お知りせんない事は元気アリ、教育

現況報告

益田翔陽高校 校長 山藤哲夫



平素から益田
翔陽高校の教
育に温かいご
理解とご支援
を賜り厚くお
礼申し上げま
す。私は今年度の
人事異動により松江
農林高校から校長として着任いたしま
した。井上前校長同様よろしくお願ひ
いたします。着任した日、校地に入り
ましたと、四十年前柔道の大会で本校を
訪れたことが、昨日のように思い出さ
れました。以前と比べると、学校周辺
も含め環境整備が行われ、学び舎とし
て申し分ない環境で、このような学校
に赴任できることを喜んでおります。

また、着任早々、市長様始め多くの方々
にごあいさつにお伺いした折、翔陽高
校の評判が非常に良く、これも偏に、
地域の方は勿論ですが、同窓会の先輩
たちの重さを痛感しております。

今年三月二日、生物生産工学と環境
土木の閉科式が行われ、同窓会長をは
じめ多くの来賓の方々のご臨席を賜
りました。翌日には翔陽高校第三期
生、五学科（電子機械科・電気科・生
物生産工学科・環境土木科・総合学科）
一五七名の卒業式を行い、皆様の仲間
として同窓会の一員となりました。引
き続き後輩たちへご指導、ご支援いた
だきますようお願いいたします。

また、満開の桜香る四月一日、P
TA会長様、同窓会長様を始めとして
多くの来賓の方々のご臨席を賜り入学
式を挙行しました。四学科一三六名の
新入生は緊張した様子でしたが、その
中にも、夢や期待が満ち溢れています
。私からは、「何事も継続する」「明
確な目標を持つ」「よく考えて行動す
る」「お互いを高め合う」の四項目に
ついて話をし、有意義な高校生活を送
れるようお願いしました。

昨年度を振り返りますと、多くのこ
とがありました。まず、五月二十日に
潮喬平（うしおきょうへい）さんのご
遺族から記念の旗を頂きました。潮さ
んは、本校の前身である益田高校農村
経済学科を卒業し、中央大学へ進学さ
れ、当時の日本の短距離界のホープと
して活躍され、マルボルンオリンピッ
クでは、100m、200m、リレー
に出場されました。昨年の三月亡くな
られた折、日本オリンピック委員会か
ら日の丸にオリンピックマークの入っ
た記念旗が奥様に送られました。奥様
のご厚意でその旗が本校に寄贈され、
潮さんの写真、パネルと共に正面玄関
に展示しています。是非、来校された
折にはご覧いただければと思います。

また、今年、一月十四日文部科学省
が選手賞の各賞を受賞しました。今年
三月の鹿児島での選抜大会の出場権も
獲得し、優勝を目指していましたが、
震災の影響で中止になってしまったこ
とが、残念なりません。他の部活動
では入部率の低下が影響してか、県高
校総体等で良い結果を収めることができ
ませんでした。今年度は重点目標に
「部活動の奨励」をあげ、部員確保を
図り、部活動（運動部・文化部）の活
性化を進めて、皆様に良い報告をした
いと思います。

最後になりましたが、会員の皆様方
の健勝とご発展を祈念申し上げると
ともに、今後ともご指導、ご鞭撻いた
だきますよう、お願い申し上げます。

元テッパンをつくる

益田翔陽高校 教頭 山藤美之



「先にテッ
パンを作れ。
そうなりや
裾野は勝手に
広がるものだ
…」

職率も年々向上していることなどが総
合的に評価されたものです。全国で
三十一校が受賞し、島根県では本校の
みで、まさにキャリア教育のテッパン
に値するものです。

この受賞の知らせと相前後して課題
研究発表会を島根県立芸術文化セン
ター（グランツワ）の大ホールで開催
しました。学科ごとに実施した課題研
究発表会で選抜された研究を全校に公
開され、教職員のみならず、保護者や地域
の関係団体、一般市民に発表するもの
でした。初めての行事で不安もありま
したが、それまで同じ学校においてな
がら他の学科の取組みはほとんど見聞で
きなかつた生徒や教職員は他学科の高
いレベルの研究発表を驚きと畏敬の念
をもつて見ることができ、相互理解を
深めることができました。まさにテッパンが
方々には翔陽高校の教育活動を理解し
てもらうことができ大きな収穫を得る
ことができました。

さて、当初にあげた「山高きが故に
貴からず」、そして裾野が広がっていこうと
する光景を見たような気がしました。
た火山活動の繰り返しで裾野が広がっ
たのです。

話を翔陽高校に戻しましょう。昨年
度、本校はキャリア教育優良学校とし
て文部科学大臣表彰を受賞しました。
各学科で取組んだ産学官連携による課
題研究事業をはじめとする地域と連携
した各種の取組み、地元企業や県外企
業の見学、職業意識を高める講演会な
どの取組みなどにより結果として非常
に高い就職合格率をあげたうえ、専門
性を活かした進路選択率や地元への就
職率も昨年に引き続き、

特色あるキャリア教育の功績が認めら
れての受賞であり、非常に名誉なこと
であります。本年度も昨年に引き続き、
ますようお願い申します。

また、満開の桜香る四月一日、P
TA会長様、同窓会長様を始めとして
多くの受賞者であり、非常に名誉なこと
であります。本年度も昨年に引き続き、
ますよう、お願い申します。

最後になりましたが、会員の皆様方
のご健勝とご発展を祈念申し上げると
ともに、今後ともご指導、ご鞭撻いた
だきますよう、お願い申します。

**平成23年度 第3回 益田翔陽高校同窓会
定例総会 プログラム**

◎受付	サンパレス益田ロビー	9:00~
◎定例総会	2階	10:00~
1. 開会宣言		
2. 黙祷		
3. 総会実行委員長挨拶		
4. 同窓会長挨拶		
5. 祝辞・招待者紹介、祝電披露		
6. 議長選出・議事手続		
7. 議事		
第1号議案	会務報告について	
第2号議案	平成23年度事業計画・収支予算(案)	
	承認について	
第3号議案	その他	
8. 閉会宣言		
9. 記念講演		

.....会場移動・休憩

◎祝賀懇親会	12:30~
1. 開宴のことば	
2. 実行委員長挨拶	
3. 乾杯	
4. 喜寿表敬者記念品贈呈式	
5. アトラクション	
6. 閉宴のことば	
◎引継ぎ式	15:30~
1. 開式のことば	
2. 校歌斉唱	
3. 同窓会旗・ハッピーリンクリング	
4. 次期当番期生(昭和60年卒)代表挨拶	
5. 万歳三唱	
6. 閉式のことば	

いるたてまつた建设警察官、電気通信関係等の職種で、益田翔陽高校の同窓会に所属する方々が、これまでに現地に震災等の災害に遭ったことがあります。はては興籍なども現地にあります。一方で、元気なままに元に戻すことは出来ません。ご存じのとおり、この向の方々が在ざります。

午前部		日 程	会 場
一〇時~	九時~		
第三回「定例総会」	総会受付		サンパレス益田

◆実行計画大綱◆

一、総会日程及び会場

二、この定例総会は、昭和五十九年卒業の当番期生を主軸に構成する「平成二十三年度総会実行委員会」が主催する。

三、総会は、益田翔陽高校同窓会で開催されていた「自主・開放・祭り型」形式を継承する。

四、総会開催資金は、総会参加会費収入より調達する。

五、本年度の総会引継式の席上で、次年度総会に関する一切の権限を、次期当番期生に引き継ぐ。

◆基本構想◆

一、本年度の益田翔陽高校同窓会定例総会を六月十二日(日)に開催する。

益田翔陽高校同窓会定例総会

平成二十三年度(第三回)

午後の部	日 程	会 場
一五時四五分 引継ぎ式	祝賀懇親会 サンパレス益田	



（昭和59年農業土木科卒業）
石田祐児
本年の実行委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ます、先の大災害から一日も早い復興をお祈り申し上げます。

東日本大震災にやみ申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。未曾有の大災害からの一日も早い復興をお祈り申し上げます。

よりお亡くなりにならされた方々にお悔い申し上げます。

さて、第三回益田翔陽高校同窓会を開催するにあたりまして、波田地会長をはじめ、同窓会役員の皆さまには

根幹となる人材の確保が困難となつて

くることが予測されます。今後の運営方法にも盡みが生じかねません。この

定となっており、今まで以上の卒業生の県外流出が危惧され、この同窓会の

番期生である我々が元気を出して当日を迎えることを考えています。

さて、地元益田地域では雇用が不安

定となつておらず、今まで以上に卒業生

の復興が危惧され、この同窓会の

番期生である我々が元気を出して当日

を迎えることを考えています。

大会時に決定いたしました。

このように情勢であるからこそ、當

營資金の一部と当日募金活動を実施し

て震災復興の義援金とすることも結成

されました。

母校は今

筑陽高橋近況報告

三、翔陽錄

九月二十九日(水)、曇り空の天候の中、平成二十一年度体育祭が行われました。涼しい中での開催にも関わらず、生徒たちに熱狂的喝采が繰り広げられました。保護者も約四〇〇名来校され、子どもたちに声援を送りました。今年度(二十三)からは学級別の完成年度に伴い、各学年とも四クラスになってしまいますが、しかし、地元や保護者の方々も楽しみにしておられる「翔陽体育祭」、今年も生徒たちの思い出になるような体育祭にしてほしいのです。

後記　先生にも書きましたが、今年23年度は少子化に伴う学級減の完成年度です。理科と文科の閉科式やその直後に起つた「東日本大震災」などマイナス方向に考へがちですが、生徒たちは勉学・部活・進路などすべてに前向きで元気です。これからますます少子化で学校の統廃合や学級減が加速していくものとの思われます。しかし生徒の元気や地元の皆様、同窓生の皆様のご協力やご指導を賜りながら前向きに前進していく所存です。以上簡単ではありますが、母校「翔陽」(益産・益工)の近況報告とさせていただきます。

